

妙法蓮華經。普賢菩薩勸發品。第二十八

爾の時に普賢菩薩、自在神通力・威徳名聞を以て、大菩薩の無量無邊不可稱數なると東方より來る。所經の諸國普く皆震動し、寶蓮華を雨らし、無量百千萬億の種種の伎樂を作す。又無數の諸天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人・非人等の大衆の圍繞せると各威徳・神通の力を現じて、娑婆世界の耆闍崛山の中に到つて、頭面に釋迦牟尼佛を禮し、右に繞ること七帀して、佛に白して言さく、

世尊、我寶威徳上王佛の國に於て、遙かに此の娑婆世界に法華經を説きたもうを聞いて、無量無邊百千萬億の諸の菩薩衆と共に來つて聽受す。唯願わくは世尊、當に爲に之を説きたもうべし。若し善男子・善女人、如來の滅後に於て云何してか能く是の法華經を得ん。

佛、普賢菩薩に告げたまわく、

若し善男子・善女人、四法を成就せば如來の滅後に於て當に是の法華經を得べし。一には諸佛に護念せらるることを爲、二には諸の徳本を植え、三には正定聚に入り、四には一切衆生を救うの心を發せるなり。善男子・善女人、是の如く四法を成就せば如來の滅後に於て必ず是の經を得ん。

爾の時に普賢菩薩佛に白して言さく、

世尊、後の五百歳濁惡世の中に於て、其れ是の經典を受持することあらん者は、我當に守護して其の衰患を除き安穩なることを得せしめ、伺い求むるに其の便を得る者なからしむべし。若しは魔、若しは魔子、若しは魔女、若しは魔民、若しは魔に著せられたる者、若しは夜叉、若しは羅刹、若しは鳩槃荼、若しは毗舍闍、若しは吉蔗、若しは富單那、若しは韋陀羅等の諸の人

を惱す者、皆便を得ざらん。

是人若しは行き若しは立つて此の經を讀誦せば、我爾の時に六牙の白象王に乗つて、大菩薩衆と俱に其の所に詣つて、自ら身を現じて供養し守護して其の心を安慰せん。亦法華經を供養せんが爲の故なり。

是人若しは坐して此の經を思惟せば、爾の時に我復白象王に乗つて其の人の前に現ぜん。其の人若し法華經に於て一句・一偈をも忘失する所有らば、我當に之を教えて與共に讀誦し、還つて通利せしむべし。爾の時に法華經を受持し讀誦せん者、我が身を見ることを得て、甚だ大に歡喜して轉た復精進せん。我を見るを以ての故に即ち三昧及び陀羅尼を得ん。名けて旋陀羅尼・百千萬億旋陀羅尼・法音方便陀羅尼とす。是の如き等の陀羅尼を得ん。

世尊、若し後の世の後の五百歲濁惡世の中に、比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の求索せん者、受持せん者、讀誦せん者、書寫せん者、是の法華經を修習せんと欲せば、三七日の中に於て一心に精進すべし。三七日を満じ已らんに、我當に六牙の白象に乗つて、無量の菩薩の而も自ら圍繞せると、一切衆生の見んと熹う所の身を以て其の人の前に現じて、爲に法を説いて示教利喜すべし。亦復其れに陀羅尼呪を與えん。是の陀羅尼を得るが故に非人の能く破壊する者あること無けん。亦女人に惑亂せられじ。我が身亦自ら常に是の人を護らん。唯願わくは世尊、我が此の陀羅尼を説くことを聽したまえ。

即ち佛前に於て呪を説いて曰さく、

阿檀地	檀陀婆地	檀陀婆帝	檀陀鳩賒隸	檀陀修陀隸
修陀隸	修陀羅婆底	佛駄波羶禰	薩婆陀羅尼	阿婆多尼

薩婆婆沙 阿婆多尼 修阿婆多尼 僧伽婆履叉尼 僧伽涅
 伽陀尼 阿僧祇 僧伽波伽地 帝隸阿憍僧伽兜略 阿羅帝
 波羅帝 薩婆僧伽 三摩地 伽蘭地 薩婆達磨 修波利利帝
 薩婆薩埵樓駄 憍舍略 阿菟伽地 辛阿毗吉利地帝

世尊、若し菩薩あつて、是の陀羅尼を聞くことを得ん者
 は、當に知るべし、普賢神通の力なり。若し法華經の閻浮提
 に行ぜんを受持することあらん者は、此の念を作すべし、皆
 是れ普賢威神の力なりと。

若し受持し讀誦し正憶念し、其の義趣を解し説の如く修行
 することあらん。當に知るべし、是の人は普賢の行を行ずる
 なり。無量無邊の諸佛の所に於て、深く善根を種えたるな
 り。諸の如來の手をもつて、其の頭を摩でたもうを爲ん。

若し但書寫せんは、是の人、命終して當に忉利天上に生ず
 べし。是の時に八萬四千の天女、衆の伎樂を作して來つて之
 を迎えん。其の人即ち七寶の冠を著て、采女の中に於て娛樂
 快樂せん。何に況んや受持し、讀誦し、正憶念し、其の義趣

を解し、説の如く修行せんをや。
 若し人あつて受持し、讀誦し、其の義趣を解せん。是の
 人、命終せば、千佛の手を授けて、恐怖せず惡趣に墮ちざら
 しめたもうことを爲、即ち兜率天上の彌勒菩薩の所に往か

ん。彌勒菩薩は三十二相あつて、大菩薩衆に共に圍繞せら
 る。百千萬億の天女眷屬あつて、中に於て生ぜん。是の如き
 等の功德利益あらん。是の故に智者、應當に一心に自ら書き
 若しは人をして書かせめ、受持し、讀誦し、正憶念し、説

の如く修行すべし。

世尊、我今神通力を以ての故に是の經を守護して、如來の
 滅後に於て閻浮提の内に、廣く流布せしめて斷絶せざらしめ

ん。

爾そのときに釋迦牟尼佛しゃかにぶつ讚ほめて言のたまわく、

善哉ぜんざい善哉ぜんざい、普賢ふげん、汝なんじよ能こく是きようの經ごじよを護ご助じよして、多所そとばくの衆生しゆじようをして安樂あんらくし利益りやくせしめん。汝なんじよ已すでに不可思議ふかしぎの功德くどく・深大じんだいの慈悲じひを成就じようじゆせり。久遠くおんより來このかた、阿耨多羅三藐三菩提あのかたの意こころを發おこして、能よく是この神通じんづうの願がんを作なして是この經きようを守護しゆごす。我當われまさに神通力じんづうりきを以もつて、能よく普賢菩薩ふげんぼさつの名なを受持じゆじせん者ものを守護しゆごすべし。

普賢ふげん、若もし是この法華經ほけきようを受持じゆじし、讀誦どくじゆし、正憶念しやうおくねんし、修習しゆしゆうし、書寫しよしゃすることあらん者ものは、當まさに知るべし、是この人は則すなわち釋迦牟尼佛しゃかにぶつを見るみなり、佛口ぶつくより此この經典きやうでんを聞きくが如ごとし。當まさに知るべし、是この人は釋迦牟尼佛しゃかにぶつを供養くようするなり。當まさに知るべし、是この人は佛ほとけ、善哉ぜんざいと讚ほむ。當まさに知るべし、是この人は釋迦牟尼佛しゃかにぶつの手みてをもつて、其その頭こころを摩なするを爲えん。當まさに知るべし、是この人は釋迦牟尼佛しゃかにぶつの衣ころもに覆おおわることを爲えん。

是かくの如ごときの人ひとは復世樂またせらくに貪著とんぢやくせじ。外道げだうの經書きやうしよ・手筆しゆひつを好このまじ。亦またまた復熹ねがつて其その人ひと及びおよ諸もろもろの惡者あくしやの若もしは屠兒とに、若もしは猪ちよ・羊やう・雞けい・狗くを畜やしなうもの、若もしは獵師れつし、若もしは女色によしきを街賣けんまいするものに親近しんぢんせじ。是この人は心意質直しんにしちぢぢくにして、正憶念しやうおくねんあり、福德力ふくとくりきあらん。是この人は三毒どくに惱なやまされじ。亦また嫉妬しつと・我慢がまん・邪慢じやまん・増上慢ぞうじやうまんに惱なやまされじ。是この人は少欲知足しやうよくちそくにして能よく普賢ふげんの行ぎやうを修しゆせん。

普賢ふげん、若もし如來にやらいの滅後めつごの五百歲さいに、若もし人ひとあつて法華經ほけきようを受持じゆじし讀誦どくじゆせん者ものを見ては、是この念ねんを作なすべし、此この人は久ひさしからずして當まさに道場どうじやうに詣けいして諸もろもろの摩衆ましゆを破はし、阿耨多羅三藐三菩提あのかたを得え、法輪ほうりんを轉てんじ法鼓ほうこを擊うち、法螺ほうらを吹ふき法雨ほううを雨ふらすべし。當まさに天てん・人にん・大衆だいしゆの中なかの師子法座ししほうざの上うへ

に坐すべし。

普賢、若し後の世に於て是の經典を受持し讀誦せん者は、
是の人復衣服・臥具・飲食・資生の物に貪著せじ。所願虚し
からじ。亦現世に於て其の福報を得ん。

若し人あつて之を輕毀して言わん、汝は狂人ならくのみ。

空しく是の行を作して終に獲る所なけん。是の如き罪報は
當に世世に眼なかるべし。若し之を供養し讚歎することあら
ん者は、當に今世に於て現の果報を得べし。若し復、是の
經典を受持せん者を見て其の過惡を出さん。若しは實にもあ
れ、若しは不實にもあれ、此の人は現世に白癩の病を得ん。

若し之を輕笑することあらん者は、當に世世に牙齒疎き缺
け、醜唇・平鼻・手脚繚戾し、眼目角疎に、身體臭穢にし
て惡瘡・膿血・水腹・短氣・諸の惡重病あるべし。

是の故に普賢、若し是の經典を受持せん者を見ては、當に
起つて遠く迎うべきこと、當に佛を敬うが如くすべし。

是の普賢勸發品を説きたもう時、恒河沙等の無量無邊の
菩薩、百千萬億旋陀羅尼を得、三千大千世界微塵等の諸の
菩薩普賢の道を具しぬ。佛是の經を説きたもう時、普賢等の
諸の菩薩・舍利弗等の諸の聲聞及び諸の天・龍・人・
非人等の一切の大會皆大に歡喜し、佛語を受持して禮を作し
て去りにき。

妙法蓮華經卷第八